



『ミナモト』 水野恭子

皆さん、2階席に座られたことはおありでしょうか？2階へあがる階段に足を掛け、目をあげると、この絵が目にはいります。この作品は、京都造形芸術大学の卒業生の作品です。「夜明け前、むせかえる匂いの中一面に広がる運煙は、この世の風景ではないかのような神秘に漂っています。三千年の時を超えて発芽したというその種の生命力に、私自身が生きることに重ねてみていました。」こう語る彼女は、97年3月に日本画コースを卒業し、その後扇面の絵付、グラフィックデザイン等の仕事を経た後、京都造形芸術大学職員となりました。そして芸術文化情報センター準備室の仕事の中で京都芸術劇場設立準備に関わり、柿落し後は劇場企画運営室で春秋座の活性化に力を注ぎました。



作家プロフィール

1974年 岐阜県生まれ  
1997年 京都造形芸術大学美術科日本画コース卒業  
現在 立命館大学教学部へ勤務するかたわら、株式会社松村泰山堂で、文化財修復の仕事に携わる。

舞台の素

緞帳 ～どんちょう～

春秋座の緞帳は、多くの人の思いが詰まった手づくり作品です。

学校の中にある劇場ということで、理事長が“生徒たちの手で”という素敵なプレゼントをくださいました。染織コースの学生達がデザインから織りまで手がけた、縦10m・横20m・重さ800kgという大作です。

テーマは“自然”。105点の力作が一つ集まっているという、とてもめずらしい緞帳です。「いざ大きくなって、画面のパーツの一つになっているのを見たら、ちょっと感動しました」と学生の一言。幕が上がるまでのひと時、この作品をじっくりと鑑賞していただければうれしい限りです…



春秋座劇場企画運営室 中山 彩

チケット購入方法

チケットをお求めの方は、京都造形芸術大学人間館A棟3F、NA314<京都芸術劇場春秋座 劇場企画運営室>へお越しください。(エレベーターで3階へ、左手廊下つきあたりになります。)お電話でのご予約も承ります。電話予約の場合、ご入金窓口で直接お支払いいただくか、もしくは郵便局からの口座振替をご案内致します。窓口へお越しの場合も、電話予約の場合も、必ず会員番号をお知らせください。また、学生・ユース価格でチケットをご購入の場合、学生証や、年齢を確認できるものが必要となります。

編集後記

去年3月、春秋座の2階客席からチラッと観た、文楽「仮名手本忠臣蔵」で、すっかり文楽に魅了されてしまった、私。歌舞伎の役者さんとは違って、文楽の世界はどちらかというと「職人氣質の渋さ」が魅力と思っていましたが、桐竹勘十郎さんにお会いして、控えめな受け答えの中にも、「華」を感じました。きっと来る、文楽ブレイク。その前にたくさん観たい！少しでも詳しくなりたい！と思う、今日このごろです。

編集 京都芸術劇場 企画運営室  
ディレクション 西川 真由実  
デザイン 宮崎 雄太  
発行日 2003年8月

春秋

KOYOMI

SINCE 2002 AUGUST

第5号

2003年8.9.10月

人形浄瑠璃  
文楽  
京都公演



京都芸術劇場  
春秋座

10月19日(日)  
昼の部13:30開演・夜の部17:30開演

# 人形浄瑠璃 文楽 「絵本太功記」「釣女」「伽羅先代萩」

10月19日(日)



2003年4月、文楽の世界で一つの名跡が受け継がれました。三世桐竹勘十郎の誕生です。文楽をはじめて見た人はやはり、まるで人間のように感情をもって、リアルに、ときに艶かしく動く文楽人形に驚きます。そして次に気になるのが、その人形を動かしている、(人形遣い)。人形遣いの襲名とは、そして文楽の面白さとは…。春秋座での文楽京都公演に出演される、三世桐竹勘十郎さんご本人からお話を伺いました。

## ■実力で上まで上がれるというのが文楽のやりがいのあるところ

文楽での襲名は大夫さんとか三味線弾きの方は比較的ありますが人形は珍しいですね。僕が入門してから僕で3人目です。36年間で3人だけ。世襲ではないんですよ。もちろん、僕の場合は親がやりましたし、三代くらい続いているところもありますけど自分の腕次第、実力で上まで上がれるというのが文楽のやりがいのあるところ。理由はいろいろありますけれども、好きで入ってきて一所懸命勉強して舞台上立つ、そういうやりかたなんです。僕の場合は最初にお手伝いをしたのが昭和41年なんですけど、それまでは父が人形遣いだったというのあって母親に手を引かれて楽屋とか客席には遊びにいってました。そのときは舞台上で人形が動いてんや、おもしろいな、程度でした。跡継ぎになんていわれたこともなかったし、やってみたくも思わなかった。たまたま人形遣いが足りなくてやってみひんか、って言われて。その時の演目が今回昼の部でやる「絵本太功記」です。その時集まったのが中学生5人と高校生1人。臨時雇いのアルバイトですね。僕と玉女さんが今でも残っています。

最初は「絵本太功記」だけの約束で行ったんですけど、良かったらまた次の公演も手伝いに来いひんか、というのがあって。勉強も嫌いだったし、まわりも知ってる人ばかりだったしね。父もいるし。みんなよう遊んでくれたんですよ。文楽が好きというより、なんとなく面白かったんです。ええ雰囲気やったんですよ。で、2公演、3公演やってるうちに、客席で観るいわゆる文楽の人形と、舞台上で動いている人形と全然違うことに気が付いたんです。普段優しく遊んでくれる人たちが姿勢を正して働いている。人形遣いだけでなく、大道具さん、照明さん…いろんな人がいっぱいいてそれで幕が開くんですよ。ああ、これが親父の仕事か。すごい世界やなって思っ。それでやってるうちに自分に合ってるんやないかという感じがしたんです。だからこれ、というきっかけはなくて。じわじわと。そこの空気が自分にとって良かったんですね。今はこうして話しますが、恥ずかしがりやで内気な少年やったんですよ。人形遣いは頭巾かぶって黙々とできるじゃないですか。これええな、と思いました。自分に向いてるんですよ。自分に向いてるというのは今でも思っています。お手伝いをして1年経ち、文楽でやっていこうと決めました。

## ■針を通すところから役になって人形を作らないとアカン

僕は絵を描いたり、ものを作ったりするんが好きでね、そういう仕事にも憧れてました。絵描きか漫画家になりたいなと思ったこともありましたね。漫画描いて8ミリで1コマずつ撮ったり、色々してました。今も色紙とかに絵を描いたりしますし、文楽劇場の観劇記念スタンプの原画も、もう20年描いています。人形の手や首(かしら)を作ったりもします。人形の首を作るのは専門の方がいるんですけど、器用な人(人形遣い)は自分で作ったりしてますね。手とか足とかは全部個人持ちなんですよ。今でも若い子で作ってる子もいますし。僕も好きやからね。いっぱい作りました。他にも、人によっては髪型に注文つけたり髪飾りや衣装を自分の好みで変えたりします。人形の着付けは自分でしますんで、出てくるだけで色気がある人とかありますね。もちろん遣い方もあるんですけど。基本の人形拵えという部分から工夫してる人はちゃんと工夫してるし。衣装を着ける時に針を通すところから役になって人形を作らないとアカンで、というのが師匠の教えです。そうすると自然に武家の娘、町娘…になってくる。ちゃんと作ってる人と作ってない人では、その辺から差が出てきます。

## ■魅力は…自分で感じて欲しい

初めて観る方は世話物のほうがええという人と、時代物の方が面白いという人とありますが、今回は昼も夜も時代物の名作です。夜の部の「伽羅先代萩」なんかは物語は我が子が犠牲にして若君の命を守るという、今で考えたらそんなことせえへんでって世界です。僕らこういう世界やから思うんかもしれないけど、誰もが持っている部分やと思うんです。だから皆さんが観てどう思うかを聞いてみたいですね。こっちは名作やて言っても、お客さんはどう思ってるかわからへん。だからここを観てくださいとはよう言わんのです。ただ内容ももちろん大事ですけど、大夫さんが語って、三味線がそれを助けて、3人の人形遣いがいかに動いてるか、最初はそれだけでいいんです。その中で自分で感じて欲しい。みどころはいっぱいありますし。どこをどう自分で面白く感じるか。それはもう自由なんで、魅力は是非ご自分で見つけてください。

三世桐竹勘十郎 略歴  
本名 宮永豊実

1953年大阪生まれ、父は二世桐竹勘十郎、姉は女優の三林京子。'67年現吉田養助に入門。養太郎と名乗り、'68年大阪毎日ホール『壇浦兜軍記』(阿古屋琴實)の水奴で初舞台。'73年国立劇場奨励賞、'75年文楽協会賞、'95年芸術選奨文部大臣新人賞など多数受賞。2003年4月三世勘十郎を襲名。襲名披露狂言「絵本太功記」で日本全国を公演。

当日、受付にて会員証をご提示いただいた方に、文楽協会創立40周年記念ポストカードをプレゼント!!  
(数に限りがありますので、先着順とさせていただきます。)



# 京都芸術劇場

2003年9月～12月公演予定表

日	催し物	開演時間	内容	会場	問合せ先	チケット発売(075-791-8240) ( )内は会員前売料金
◇9月						
9/4	木 歌・舞・劇—OKUNI—	19:00	出雲阿国にはじまる「かぶき者」の世界を、五感に響く音楽を中心として、踊りと芝居で御覧頂きます。出演:二十一世紀歌舞伎組 ほか	春秋座	OKUNI事務局 TEL/075-352-0711	一般8,400円(7,560円) 全席指定/残席わずか
9/5	金					
9/6	土	14:00				
9/13	土 人魚姫 ～ちいさなおんがくげき～	13:00	アンデルセンの童話をもとにした小さな音楽劇。歌:加来陽子 ギター:西野雅人	春秋座	京都造形芸術大学 劇場企画運営室	発売中 一般 1,500円(1,000円) 学生 800円 小学生以下 無料 (4歳未満は入場できません)
9/14	日 2003マスキロードプロジェクト 「真伎楽」	14:00	作・プロデュース・演出:野村万之丞	春秋座	ACT.JT(アクトシティ) TEL/03-5766-6054	発売中 1階 5,000円(4,000円) 2階 3,000円(2,500円) 学生席 1,000円
9/20	土 「羊の歌」 —過去と向きあい、 あしたを見晴らす—	13:30	2003年は未年。「羊の歌」の著者・加藤周一の講演と対話を通じて、日本と世界の来し方を振り返り、この先何が問題なのか、われわれはどうすればいいのかを探ります。	春秋座	「加藤周一」講演と対話のつどい実行委員会 TEL/075-432-3636	発売中 一般 前売1,500円(1,300円) 一般 当日1,800円 学生1,000円 高校生以下無料
9/23	火 「天守物語」公開稽古	14:00	9/27,28に行われる「天守物語」の公開稽古。	春秋座	京都造形芸術大学 子ども芸術大学 企画運営室 TEL/075-791-9120	無料
9/27	土 「天守物語」	18:30	子どもと保護者と学生で作る総合芸術「天守物語」の上演。	春秋座		無料
9/28	日	14:00				
◇10月						
10/12	日 第六回リサイタル 若柳吉蔵の会	17:00 (予定)	昨年春秋座で芸術祭参加公演として自らのリサイタルを開いた若柳吉蔵。今年も同じく春秋座で日本舞踊の真髄をお楽しみいただけます。	春秋座	若柳吉蔵の会 TEL/075-611-1234	9/1発売開始 一般 8,000円 (7,200円)
10/19	日 人形浄瑠璃文楽 京都公演 昼の部 「絵本太功記」「釣女」 夜の部 「伽羅先代萩」	13:30 17:30	三世桐竹勘十郎襲名披露狂言「絵本太功記」(夕顔棚の段)(尼ヶ崎の段)ほか。	春秋座	京都造形芸術大学 劇場企画運営室	発売中 一般 5,000円(4,500円) 学生 1,500円(当日指定)
10/26	日 京都府古典芸能振興補助対象公演 「常磐津都会」	11:00 (予定)	廃曲寸前の稀曲を中心にした常磐津古典曲の演奏。「舌切り雀」「阿古屋三曲」素囃子「菊の栄」舞踊 坂東三津五郎(曲未定)舞「藤源太」井上八千代	春秋座	常磐津都会 TEL/075-561-1038 075-561-4201	8/14前売開始 一般 3,000円(2,700円) 学生 1,000円
10/29	水 国立サンクトペテルブルク・ アカデミー・バレエ 「白鳥の湖」	18:00	ロシア気鋭のバレエ団、国立サンクトペテルブルク・アカデミー・バレエによる「白鳥の湖」の全幕上演。	春秋座	京都造形芸術大学 劇場企画運営室	発売中 1階 8,000円(7,200円) 2階 6,000円(5,400円)
◇11月						
11/8	土 舞台芸術研究センター 上演実験シリーズvol.10 笠井観ソロダンス「花粉革命」	17:00	<舞踏>の草創期を担い、現代も疾走をつづける笠井観のソロダンス公演。	春秋座	京都造形芸術大学 舞台芸術研究 センター TEL/075-791-8240	*ユースは学生を含む25歳以下 8/1前売開始 前売 一般3,500円(3,000円) ユース 2,500円 当日はそれぞれ500円増し
11/16	日 楽劇「平和楽」	16:00	作・プロデュース・演出:野村万之丞	春秋座	ACT.JT(アクトシティ) TEL/03-5766-6054	8/22前売開始 1階 5,000円(4,000円) 2階 3,000円(2,500円) 学生席 1,000円
11/23	日 スポレート実験オペラ劇場Ⅱ ヴェルディ作曲 歌劇「椿姫」	14:00	オペラ歌手の登竜門と言われるイタリアのスポレート実験オペラ劇場による上演。	春秋座	京都造形芸術大学 劇場企画運営室	8/22前売開始 1階 7,000円(6,300円) 2階 5,000円(4,500円)
11/24	月 ミュージカル「つばめ」	14:00 18:30	国と国、2つの愛に翻弄される女性の物語。脚本・演出:ジェームス三木	春秋座	わらび座関西事務所 TEL/06-6864-9600	8/22前売開始 前売 一般4,500円(4,000円) 当日 5,000円
◇12月						
12/6	土 舞台芸術研究センター 上演実験シリーズvol.11 「現代能楽集Ⅰ」	14:00 19:00	能「葵の上」「卒塔婆小町」を基にした現代劇二本立て公演。総合監修:野村萬斎 作・演出:川村毅	スタジオ21	京都造形芸術大学 舞台芸術研究 センター TEL/075-791-8240	*ユースは学生を含む25歳以下 10/6前売開始 前売 一般 5,000円 ユース 3,000円 当日はそれぞれ500円増し
12/7	日	14:00				
12/6	土 舞台芸術研究センター 上演実験シリーズvol.12 大駱駝艦・天賦典式 「魂戯れ たまざれ」	17:00	廃赤見率いる舞踏グループ「大駱駝艦」が新作を発表。振舞・演出・美術:廃 赤見	春秋座	京都造形芸術大学 舞台芸術研究 センター TEL/075-791-8240	9/18発売開始 前売 一般4,000円(3,500円) ユース 2,500円 当日はそれぞれ500円増し
12/7	日					
12/23	火 スーパー狂言 「王様と恐竜」	14:30	スーパー狂言「王様と恐竜」の上演	春秋座	上京ワークハウス TEL/075-451-3004	9/22(月)10:00～17:00まで ☆友の会先行予約 (一般発売は9/24～) 前売 A席5,000円(4,500円) B席4,000円(3,600円) 当日はそれぞれ500円増し

<公演チケットのお問合せは> 劇場企画運営室 TEL/075-791-8240

## スケジュール・ピックアップ

バレエ	全席指定	チケット発売中
10月29日(水) 18:00 開演		
一般前売 1階席 8,000円 (会員前売 7,200円) 2階席 6,000円 (会員前売 5,400円)		

### 国立サンクトペテルブルク・アカデミー・バレエ『白鳥の湖』全幕

建都300年を迎えるサンクトペテルブルク。ロシアを代表する芸術の都。マリンスキー劇場バレエ(キエロフ・バレエ)と兄弟と称される国立サンクトペテルブルク・アカデミー・バレエは、この地に、1966年ピョートル・グゼフによって設立されました。当初はキエロフ・バレエの若手ダンサーを中心に組織され、創作バレエや埋もれていた作品の復活など、意欲的な作品を行うことで知られます。

現在の芸術監督はユーリー・ペトウホフ。彼はレニングラード国立バレエ(マールイ劇場バレエ)のソリストとして長年活躍し、日本にも多くのファンを得ています。団員には、名門ワガノワ・バレエ・アカデミーの卒業生も多く、現代作品から古典作品まで80を超えるレパートリーを持っています。ロシア国内はもちろん、世界80ヵ国で公演を行っており、世界中の国々で高い評価を受けています。

今回春秋座で上演するのは、知らない人はいない、といっても良いであろう「白鳥の湖」ですが、この作品は、1877年ポリショイ劇場での世界初演の後、チャイコフスキーの没年1894年にサンクトペテルブルクでの抜粋上演で好評を得、翌年にはレフ・イワノフ、マリウス・プティパの共同振付による全幕上演で、バレエの代名詞としての地位が確立され、現在に至っている名作です。

時を経て色褪せない音楽と、洗練された舞台を是非、御覧ください。

ミュージカル	自由席	チケット発売中
9月13日(土) 13:00 開演		
一般 1,500円 (会員前売 1,000円) 学生 800円 小学生以下 無料		

### 人魚姫 ～ちいさなおんがくげき～

昨年9月に「こころのふれあいコンサート」で好評を博しました二人のミュージシャンによる、アンデルセンの童話をもとにした音楽劇。こどもにしか分からない人魚姫への憧れ、大人になって初めて分かる物語のテーマ。

透明感ある歌声で定評のある加来陽子が、静かな海の世界から魅力に満ちた人間世界への憧れを抱く人魚の心を、全曲オリジナルソングで、時に明るく、時に悲しく歌い上げます。ギターによるさまざまな音色にも、想像力をかき立てられるこの舞台、ぜひ、親子で御覧いただきたい作品。

楽劇	全席指定	チケット発売中
9月14日(日) 14:00 開演		
1階 5,000円 (会員前売 4,000円) 2階 3,000円 (会員前売 2,500円) 学生席 1,000円		

### 2003 マスクロードプロジェクト『真伎楽』

かつて、アジアに広く存在した仮面芸能・「伎楽」。わずかに残る伎楽面や、アジア各国の仮面芸能をもとにして、総合芸術家である野村万之丞が、世界の俳優達とともに創造した「真伎楽」。(天の章)、(地の章)、(人の章)のなかで、神やあらゆる国の人が舞い、演じ、かつてのシルクロードを通った文化の流れが目の前に広がります。

演劇	自由席	チケット発売中
9月27日(土) 28日(日) 開演時間 27日/18:30、28日/14:00 開演		
入場無料		

### 天守物語 (こども芸術大学「子どもと親と学生のクリエイティブワークショップ」)

こども芸術大学主催のワークショップ期間中(7/26～31、8/23～30)に創り上げた舞台の上演。子どもと親とそして学生とで作り上げる舞台です。演劇創作・制作活動を通して、総合芸術としての演劇の多様な要素に触れようというこの企画で、演技はもちろん、衣装づくりや殺陣の基礎を学び、春秋座というプロフェッショナルな舞台上で上演するまでを共同体験します。9月23日には、公開稽古も行われます。(時間未定) 原作/泉鏡花作「天守物語」 特別講師・美術/毛利臣男 美術制作指導/大野木啓人、中山和子、平瀬敏明、金澤一水 殺陣と動き指導/加藤宏章 演技とことば指導/細見佳代 全体企画・演出/阪本洋三

文楽	全席指定	チケット発売中
10月19日(日) 昼の部 13:30 開演・夜の部 17:30 開演		
一般前売 5,000円 (会員前売 4,500円) 学生 1,500円 (当日指定)		

### 人形浄瑠璃 文楽 京都公演

文楽を観ていると、生身の人間が舞う歌舞伎よりもっとリアルに見えてくる時があります。それはきっと、大夫と三味線、そして人形遣いという三者の情がひとつに凝集されて生まれる瞬間。昼の部/三世桐竹勘十郎襲名披露狂言「絵本太功記」(夕顔棚の段)(尼ヶ崎の段)、「釣女」夜の部/「伽羅先代萩」 出演:豊竹嶋大夫、竹澤団七、吉田養助ほか。昼・夜とも、大夫・三味線・人形遣いによる解説がございます。



ダンス	全席指定	チケット発売中
11月8日(土) 17:00 開演		
一般 3,500円 (当日 4,000円) ユース 2,500円 (当日 3,000円) (ユースは学生も含む25歳以下) 会員前売 3,000円		

### 舞台芸術研究センター上演実験シリーズ vol.10 笠井叡ソロダンス『花粉革命』

土方巽、大野一雄とともに、日本発のオリジナル現代ダンス<舞踏>の草創期を担い、現代も疾走を続ける笠井叡。東京初演時にはなかった、長唄「京鹿子娘道成寺」生演奏による上演。

\*公演終了後、シンポジウムを開催いたします。

振付・構成・演出・ダンス/笠井叡 長唄/杵屋勝之弥連中 鳴物/六郷新之丞連中

楽劇	全席指定	8月22日発売開始
11月16日(日) 16:00		
1階 5,000円 (会員前売 4,000円) 2階 3,000円 (会員前売 2,500円) 学生席 1,000円		

### 楽劇『平和楽』

野村万之丞の楽劇三部作第3弾。『平和楽』のテーマは言語。狂言の「唐人相撲」を基に、でたらめ語をしゃべる中国人と、日本人の相撲取りがストーリーを進展させていく中で、言語を破壊し、言葉に頼らず心を伝達する、というテーマを掘り下げています。狂言はもともと“和み楽しむ”「和楽」の世界であると言われます。おおらかで豊かな魅力を持った狂言を、平成の世に「楽劇」というフレームに蘇らせ、作り上げた作品。作・プロデュース・演出:野村万之丞

演劇	全席指定	10月6日発売開始	studio21
12月6日(土) 14:00 開演・19:00 開演/7日(日) 14:00 開演			
一般前売 5,000円 (当日 5,500円) ユース 3,000円 (当日 3,500円) (ユースは学生も含む25歳以下)			

### 舞台芸術研究センター上演実験シリーズ vol.11 現代能楽集I『AOI』『KOMACHI』

現代演劇の演出家として評価の高い川村毅が、謡曲「葵の上」「卒塔婆小町」をもとに、三島由紀夫の「近代能楽集」を超える、新たな能作品の現代化に挑みます。第一部には麻実れい、第二部には俳優・手塚とおる、ダンサー・笠井叡が出演。多彩な顔ぶれでお届けします。実験映画作家の伊藤高志によるビデオ映像も見ものです。少し変わった舞台を御覧になりたい方におススメ。

12/6(土) 14:00の回終了後、アフタートークを開催。

舞踏	全席指定	9月18日発売開始
12月6日(土)・7日(日) 17:00 開演		
一般 4,000円 (当日 4,500円) ユース 2,500円 (当日 3,000円) 会員前売 3,500円		

### 舞台芸術研究センター上演実験シリーズ vol.12 大駱駝艦・天賦典式『魂戯れ たまざれ』

歌舞伎発祥から400年目にあたる今年、歌舞伎劇場である京都芸術劇場のために、<現代のカブキモノ>の名にふさわしい、磨赤児率いる舞踏グループ、大駱駝艦が新作を発表。

振舞・演出・美術:磨 赤児

オペラ	全席指定	8月22日発売開始
11月23日(日) 14:00 開演		
1階 7,000円 (会員前売 6,300円) 2階 5,000円 (会員前売 4,500円)		

### スポレート実験オペラ劇場II ヴェルディ作曲 歌劇『椿姫』

オペラ歌手の登竜門と言われるイタリアのスポレート実験オペラ劇場から、今年もまた、オペラ界の新星が来日します。今回の演目は、ヴェルディのオペラ「椿姫」。海外から豪華な舞台装置や衣装を運び込むいわゆる“引越し公演”ではなく、オペラの一番の魅力である人間の声を中心とした舞台を創ろうという、春秋座オペラ。主役の3人は、イタリアのオペラコンクール入賞の実力派を招聘し、聴き応えのある舞台となっています。また、京都市立芸大から卒業生・在学生在が、コーラスと弦楽五重奏に参加。本物の声と、ドラマをお届けいたします。

指揮/千葉芳裕 演出/パオロ・バイオッコ  
出演/ヴィオレッタ(ソプラノ):ノヴェッラ・パッサーノ  
アルフレード(テノール):アンドレア・C・コロネッラ  
ジェルモン(バリトン):ヴァインチェンツォ・タオルミーナ ほか

椿姫-La traviata-

1850年頃のバリを舞台にした、高級娼婦ヴィオレッタと青年紳士アルフレードの悲恋物語。アレクサンドル・デュマの小説がもとになっている。1853年ヴェネツィア、テアトロ・ラ・フェニーチェ初演。



野村万之丞



笠井叡

麻実れい



# 花粉革命

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 上演実験シリーズ

不思議なタイトルに驚く方もいらっしゃるでしょうが、これはダンスの公演です。その昔、ドイツの文学者ゲーテは、植物の葉、色鮮やかな花卉の一枚一枚を植物の全体とみなして、咲き誇る花々の美しさよりも、その一葉が変化し、発展して全体をつくりだしていく内的なプロセスを重視していたといわれていますが、笠井観は、そんなゲーテの自然観をもとにしたオイリュトミーに深く傾倒していました。

日本には、1950年代末に「舞踏」という新しいダンスが誕生しましたが、笠井観は土方巽、大野一雄といった創始者と並んで、一時代を築いたひとです。もともと、ほかのジャンルの芸術と同じように、バレエやダンスは西欧から輸入され、「形」あるものとして、日本人はその模倣から始めました。「舞踏」を創始したひとたちも、はじめはモダンダンスを学んでいました。しかし、もっと自らの内側から湧き起こる衝動を表現したい、と考えた彼らは、やがて自らの身の丈にあった表現形態を必要としていったのです。バレエやモダンダンスで表現する美しい「かたち」ではなく、発展して全体をつくりだしていく内的な「プロセス」を求めて。推測でしかありませんが、笠井観は、ゲーテが見出した植物の姿に、舞踏を始めた自らの姿を重ね合わせていたのかもしれない。

今回、笠井観は長唄の『京鹿子娘道成寺』（この公演の初演はちょうど六代目中村歌右衛門が亡くなった直後でした）の生演奏をバックに、着物と鬘（かつら）をまとうて踊り始めます。しかし、白拍子の狂い、変容が頂点に達したとき、かれのなかで言葉では表現することのできない内的な何か弾け、即興によるダンスが始まるのです。

すでに還暦をむかえた笠井観。にもかかわらず、いまなお変化し続け、新しい蕾をあちらこちらに生み出しつづける60歳の独舞を、どうぞ堪能ください。

舞台芸術研究センター 酒井 徹

振付・構成・演出・ダンス 笠井 観  
長唄 杵屋勝之弥連中  
鳴物 六郷新之丞連中

2003年11月8日（土）17:00pm開演（開場16:30pm）

\*公演終了後、シンポジウムを開催いたします。



かつてアジアには「伎楽」と呼ばれる世界共有の仮面芸能が存在していました。伎楽はユーラシア大陸全体に広がる神話をもとに創られ、さまざまな文化や宗教と交わりながら各国に伝播していったといわれています。日本でも、聖徳太子の時代に大陸から伝えられ、寺社などで盛んに上演されましたが、平安末期に滅んでしまいました。しかし、その痕跡を伝える伎楽面などが、正倉院や法隆寺にわずかながら残されており、それらの貴重な文化財は、いまなお多くの研究者、演出家の想像力を刺激してやみません。

今回上演される『真伎楽』は、狂言師・野村万之丞が、伎楽面14種23面と衣装道具などを復元し、アジア各地のフィールドワークをもとに世界の俳優と新たに作りあげたものです。

# 2003 マスクロードプロジェクト 真伎楽

Shin  
Gigaku  
楽

野村万之丞は、狂言、八代目野村万蔵家の当主でありながら、執筆家、プロデューサー、大河ドラマの芸能考証家など、さまざまな顔を持ち、今年からは本学の教授にも赴任しました。この「マスクロードプロジェクト」では、アジア共通の仮面楽劇「伎楽」を復興させ、シルクロードを逆流する新しい文化ネットワークの創造に挑んでいます。

東京を皮切りに、韓国やアメリカでも上演された話題作。仮面を通じて、中国、イラン、インドなどさまざまな文化が混ぜ合わされていく様子をお楽しみください。

作・プロデュース・演出：野村万之丞  
2003年9月14日（日）14:00開演



## 公演レポート 『風は海の深い溜息から洩れる』 2003年7月3日 春秋座（舞台上舞台）

舞台芸術研究センターでは、7月3日に春秋座を使った新企画を行いました。演劇やダンスにとどまらず、また春秋座に気軽に来ていただくための「フットワークの軽い企画」です。

第一弾は、春秋座の舞台上に舞台と客席を作り、ノン・ジャンルの音楽集団「ソシエテ・コントロール・レタ」と、現代詩人として関西圏で熱狂的なファンを持つ金時鐘による詩の朗読と音楽のライブ・セッションを行いました。



### 『場所なき声』

この日本語はなんなのだろうか？ この演奏を観ている間、私の頭はこの問いで一杯だった。達者な日本語というよりは、存在から直接発せられるような音であった。日本の統治下にあった朝鮮で、日本語の教育を受けていた金時鐘さんの、その詩は、彼の人生において、国と言語をまたぐことを課せられたことへの孤独感や、自分の存在に鋭敏になることから生まれた力強さ、彼自身の過酷な記憶が発する色濃い映像風景。そして何よりも優しさに満ちていると私は思った。

演奏者達が生み出す音楽も、どのジャンルにも属することなく、しかし、ただそれに抗うだけではなくJAZZやFUNKという既存のものを消化しながら、なおも、自由に音の居場所を探している、その流動性と繊細さがあった。それがバンド名の由来である、ソシエテ・コントロール・レタ。国家を持たない社会というその意味とあいまって、とても魅力的に聞こえた。

しかし、私が一番印象的だったのはやはり、詩がこれほどまでにその人の存在を、あぶりだしてしまうのかという事への驚きであった。存在は赤裸々になり、彼自身が持つ身体の、言葉の独特のリズムに、彼の記憶は編みこまれて、私たちの眼前にたちあらわれる。私にとっては、まるで身体の内部と外部がそのまま反転してしまっ、その彼の身体の内部のただなかを泳いでいるようなそんな感じさえあった。彼が過ごしてきた人生について、そうか、そういうことがあったのかとそう感じることも出来なかったが、彼の身体にはもっと奥深いなにか得体の知れないものが存在していたはずだ。

詩と音楽が出会うその瞬間に、金時鐘73歳、ソシエテのリーダー、港大昇33歳、その40年もの時をまたいで存在と存在が出会った。その場所から響いてきたのは、特有のリズムと独特の存在感を持った、場所なき声であった。

映像・舞台芸術学科3回生 入江 慧

“フットワークの軽い企画”は、今後も継続的に進んでいく予定です。どうぞお気軽にご参加ください。

### がんばる学生アルバイト ー制作助手編ー

「春秋座はどんな場所であつたら良いのか」ということを考えたりする。学生主体の公演、古典芸能、海外作品、映像作品の上映、私たちの先生の作品など、様々なものを行っている春秋座だが、公演によって劇場全体の雰囲気は大きく変わっていると私は感じる。そんな春秋座を見ていて、劇場スタッフとしての私は、その公演ごとに変わる雰囲気を敏感に察知し、それに合わせて対応するのが役目なのではないかと思うようになった。アルバイトを始めた頃は、そう考えることはなかったが、今の私は、「来場されるお客様と公演のイメージが作り上げるその場の雰囲気に合った対応をするように」と考えるようになった。

私は春秋座に、柿落しの公演から劇場スタッフとしてお世話になっている。それからいくつもの公演で、制作助手という仕事についてきた。制作助手の特徴は、その仕事の種類が、関わった公演の数ごとに増えていくほど毎回違うことではないかと思う。劇場の表に立って、来場されるお客様と顔をあわせてお迎えすることもあれば、電話で質問されるお客様に対して春秋座の顔になったり、または、劇場を仕事の間として使われる公演関係者との協力があつたり…。しかし、これだけではないのが制作助手。例えば、ある公演では、舞台に出て花束贈呈をし、またある公演では、タクシーをスムーズに楽屋口につけるために慣れない手つきで誘導に走った。制作助手は、出来るだけ多くのことに対応できることが必要であると考えている私は、いつでも「何でも来い！」の姿勢であるように心がけている。予測できない仕事に少し戸惑うことはある。しかし、それらが、各公演ごとに必要とされる仕事であり、そして、その公演の特徴を象徴しているものでもあると考えることが出来る。

そう考えると、制作助手は公演の雰囲気を感じ取るには一番良い仕事なのかも知れない。「予測できない仕事」であり、「その公演らしさが出ている仕事」で、だからこそ「必要とされる仕事」。それが制作助手で、私がやり甲斐を持てる仕事である。そんな仕事に就いているのだから、よりお客様と公演の雰囲気を大切にしたい対応を劇場の表でも、裏でも毎回心にとめて続けていきたい。

映像・舞台芸術学科3回生 若佐杏奈

